

三輪洋子／ジャズ・ピアニスト ( yokomiwa.com ) (myspace.com/yokomiwa)

Yoko Miwa Trioは、ボストンでは良く知られる Ryles Jazz Club /ライルス・ジャズ・クラブ (ryles.com) では6年以上にわたり Sunday Brunch /サンデー・ジャズ・ブランチでの演奏を毎月2週目と4週目の日曜日(10:30amから2:30pm迄)、その他 Les Zygomates /レ・ジゴマツト (winebar.com)、Stork Club (storkclubboston.com) 等にレギュラーで出演。

\*\*\*\*\*

1970年、兵庫県神戸市出身。4歳からクラシックピアノを学び、89年大阪音楽大学ピアノ科へ入学。この時期、ジャズに対する興味が募り、小曾根真の父、小曾根実(ハモンドオルガン奏者、ピアニスト)に師事。後に真の師事も受ける様になる。音大卒業後、小曾根ミュージックスクールでの講師や他音楽教室での講師を勤めながら、関西地域でのライブ活動を行う。

94年にジャズ理論を正規に学ぶため、バークリー音楽大学との提携校である甲陽音楽院へ入学。96年にバークリー音楽大学への奨学金オーディションにトップの成績をあげ、翌年97年にバークリーへ入学。ジョアン・ブラッキーン、レイ・サンティシ等に師事。パフォーマンスに加え作曲、アレンジを学ぶ。卒業後、1999年には、バークリースタッフに加わり、ボーカル部門の伴奏者として働くようになる。

ケビン・マホガニー(グラミー賞受賞の Warner Bro's のアーティスト、1999年の”Downbeat Jazz Singer of the Year”でもある)がボストン在住の間は彼の専属ピアニストとして活動。

2001年5月には、ワシントンDCのケネディーセンターで開催された”メリー・ルー・ウィリアムス・ウーメン・イン・ジャズ・フェスティバル”に出演。

三輪は、自己のトリオでの活動をボストンを拠点に行う中、フリーランサーとしても活躍。

今迄の共演者は、ケビン・マホガニーの他、スライド・ハンプトン、ジョージ・ガゾーン、ジョン・ファディス、ジェリー・バーゴンジ(バークリー卒業後、師事)、ジョン・ロクウッド、アルトロ・サンドバル、フィル・ウィルソン、ジョー・ハント、マイク・ターク、エド・カエ等。

日本では、2001年に三輪の初リーダーアルバム “In the Mist of Time” が、徳間ジャパンから発売。2003年に2枚目のアルバム ”Fadeless Flower”、2005年に3枚目のアルバム “Canopy of Stars” がポリスターから発売。これら3枚のアルバムは全て、三輪のオリジナルから成る。2008年、4枚目のアルバム(ボストンFMスタジオ/WGBHでのレコーディング) “The Day We Said Good Bye” は koyo-sounds から発売。

三輪洋子トリオは2003年から定期的に日本ツアーを行っているが、今年2009年の日本ツアーでは、甲陽音楽学院時代の同級生でもあった“花・花”との共演や、名古屋ブルーノート、モントレー・ジャズ・フェスティバルに出演など、大反響に終わった。

今までにリリースされた三輪洋子トリオのアルバムはアメリカでも数多くの批評家からの絶賛を浴びた。例を挙げると、ビレッジ・ボイス/ジャズ・イズ（アメリカNo.1売り上げジャズ雑誌）/オール・アバウト・ジャズ/イージャズ・ニュース.com/ジャズ・リビュー.com等。その他、フェイドレス・フラワーは全国公共ラジオ番組「ジャズ・アフター・アワーズ」では定期的に流され、世界40ヶ国にわたって放送されているラジオ番組「ヴォイス・オブ・アメリカ」でもインタビューを行った。

\*\*10月9日にはフィラデルフィアにあるフィラデルフィア・ミュージアム・オブ・アートで「アフター5」というコンサート・シリーズの演奏者に抜擢。

\*\*10月13日/9pmには過去にも3度スペシャルゲストとして出演しているボストンのWGBHラジオFM番組「エリック・イン・ザ・イブニング」でのトリオでの生演奏とインタビュー出演が決まっている。

#### <アメリカでの評論家による批評>

三輪洋子の初アルバムでは、彼女のビル・エバンスの影響を受けたピアノのスタイルと、しかもキース・ジャレット、チック・コリア、スティーブ・キューン等の作品へもつながる、彼女の音楽に対する知識が見る事が出来る。綺麗な歌われた音の響きや、時折のブルースを好むとする傾向にあるサウンド等から、彼女を技術的にも確実性のある演奏家として紹介しているばかりでなく、彼女のメロディーの魅力的な印象派の作曲家としての伸展する才能をも十分に見せている。

<James Isaacs/ ジェームス・アイゼック>

ピアニスト、三輪洋子は慎ましやかなメロディーと、エレガントなフレーズ（表現法）、そして「ジャズの詩人」としての感情豊かな叙情的な繊細な感受性を見せている。

<Jazziz Magazine / ジャズ・イズより>

この新しいピアノ・トリオはクリーンなサウンドと精巧なバランス、そして控えめな美を目指している。

<New York Village Voice / ニューヨーク・ビレッジ・ヴォイス>

彼女は魅力的な繰り返されるフレーズでリスナーを魅惑し、そして簡潔で美しく表現されたアイデアに満ちたストーリーで、リスナーを引き付けるのだ。三輪のスタイルの違ったオリジナルが、上手くこのアルバムの流れを一つにスムーズにまとめているのは深く感銘を受ける。

<All About Jazz / オール・アバウト・ジャズ>

彼女の2作目となるこのアルバムは今年のジャズ界でもっとも心温まる感情豊かな作品である。オリジナル曲のみの、このアルバムは彼女の才能が多様なスタイルで表現されている。しかし、一貫して感心させられるのは、複雑で、実現の容易でない高度な音楽的アイデアを、リスナーを強く引き付け、一方でまた優しく、誘惑するような演奏として伝えることができる彼女の才能である。

<All Music Guide / オール・ミュージック・ガイド>

三輪洋子トリオの音楽は、心を奪われる様なメロディーが美しい事と、テクニックが素晴らしい事だ。9つの心に響くオリジナルは多様な感情と稀に無いほど、高度な知的洗練性を表現し、聞く者を華麗なジャズの世界へと引き込む。

<Sounds of Timeless Jazz / サ운ズ・オブ・タイムレス・ジャズ>

”Jazz Brunch with Yoko Miwa / ジャズ・ブランチと三輪洋子

ジャズとブランチはまるでデイビッド・オーティーズとRed Soxの様に適応した組み合わせである。それはとても自然な組み合わせであり、三輪洋子以外には誰もライルスのレギュラーのサンデー・ブランチに適任する者はいない。彼女は現在ボストン在住の日本からの現代のジャズピアノのマスターである。

<ボストン・マガジン>